

東日本大震災被災地支援の報告

熊本県身体障害児者施設協議会 会長
愛隣館 三浦 貴子

1. はじめに

- 3月11日 東京で全県代表者会議（協議員総会）中に地震発生、多くの人々が帰宅困難となる。
- 3月12日から全国社会福祉協議会、全国身体障害者施設協議会を上げて被災地への連絡を図る私達は熊本で、東北沿岸部施設と海との距離を地図上で計って心配し、祈るしかなかった。
- 3月15日 被災地（仙台）からのメール

2. 九州で動く

- 3月16日 九州身体障害者療護施設協議会日野会長（福岡）、副会長三浦（熊本）で発案合意し、緊急支援物資を届けることを決定

第1次支援物資搬送

- 愛隣館の1トントラック（緊急車両申請）、NGOベトナム育英会の運転 ボランティア2名（秀嶋氏、川原田氏）。九州各県身障施設の迅速な協力の下、中2日間で集まった物資（燃料・食料・医療的ケア、介護用品等）約6トン
- 現地との連絡調整（ニーズ、物資の優先順位等）、追加搬送支援決定
3月20日 熊本 愛隣館 出発 → 3月23日 仙台 ありのまま舎 着
トラックはそのまま支援活動に残る



H23. 3. 20 愛隣号山鹿発



支援物資 11 トン分

第2次支援物資搬送

- 永井運送（熊本）の支援協力を受け、10トントラック（2名の運転手）で搬送
追加2日間で集めた支援物資（燃料、食糧、ケア用品、衣類、寝具等）
物資の仕分け、記録、梱包作業（約50名の協力）
3月24日 福岡発 → 3月26日 仙台着
※仙台ありのまま舎（身障協 東北ブロック 白江会長施設）に届け、その法人の協力で沿岸部被災地施設、在宅の障害者、難病患者、避難所等へ配られた。



H23. 3. 24 10トン車 久留米 千歳療護園 発



H23. 3. 24 石巻市

震災支援Tシャツ「つながろう日本」事業

- 被災地視察の際、以前より考えていた、ネットワークを活用しみんなで参加して支援金を集める企画を身障協役員に提案、その後組織決定
- 支援Tシャツ事業部を「愛隣館地域活動支援センターぴあぴあ」で担う（担当：志方・松見）

(H23年6月29日～9月30日)



Tシャツ事業部 利用者・スタッフ総出で



一日千枚受注の日も

- Tシャツ・ポロシャツは、山鹿オガタマーク、宮崎 障害者就労継続B型事業所やじろべえ等で印刷、1枚につき1,000円の支援金が集まる形で販売した
- 全国で11,331枚のTシャツを売り上げ（熊本で1,458枚）、1,133万1千円の支援金を集めることができた

- 支援金は10月末に身障協として下記団体へ分配した

- (1) 身体障害者施設協議会 195万円
岩手県、宮城県、福島県の各県協議会に、各65万円
- (2) 東北3県難病団体連絡協議会 300万円
岩手県、福島県、宮城県の各県難病連に、各100万円
- (3) 宮城県難病相談支援センター 638万1千円

福島からの御礼状

福難連平 23 第 32 号
平成 23 年 11 月 5 日

社会福祉法人全国社会福祉協議会
全国身体障害者施設協議会
会長 日野 博愛 様

福島県難病団体連絡協議会
会長渡邊 政子

東日本大震災被災者支援活動に対する支援金送金の御礼

謹啓

街に落ち葉も散り敷くようになりました。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度は、東日本大震災に対しまして、貴社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国身体障害者施設協議会の皆様はじめ多くの皆様から、支援金と励ましを寄せていただき、有難く心より御礼申し上げます。被災状況は8ヶ月過ぎようとしている今でも、余震と原発事故そして風評被害で、気の休まらない日が続いております。被害は想像をはるかに超えるほどで、沿岸近くの住居はほとんど津波にさらわれてしまいました。大勢の方が、仮設住宅や避難先で不自由な生活を余儀なくされているのが現状です。当県は、原発事故という重大問題もあって、国から避難命令が出されました。全会員の安否確認も難しい状況にあります。一日も早く世の中が落ち着くことを願うばかりです。このような状況ですが、助け合いながら希望を持って前進したいと思います。お寄せいただきました支援金は、大切に活用させていただきます。本当に有難うございました。時節の折から、皆様のご健康をお祈り申し上げながら、御礼に代えさせていただきます。

謹白

3. 被災地へ職員派遣 (2011. 4. 8~4. 13)

- 全社協社会福祉施設協議会連絡会の要請により、被災地の社会福祉施設等への支援にあたってのニーズを把握することを当初の目的として、相談支援専門員1名(伊藤)を派遣
- 津波で施設建物が全壊した障害者支援施設はまなす学園(岩手県下閉伊郡山田町)の避難先に入り、利用者の直接的な支援を実施。また、派遣期間中、避難所の引っ越しがあり、作業の手伝いと引っ越し先の環境整

備等を行う



H23. 4. 9 岩手県山田町



H23. 4. 11 はまなす学園の避難所にて

4. 被災地を訪ねて (2011. 6. 1~6. 2)

- 仙台ありのまま舎のご案内の下、身障協役員で岩手県大船渡市、宮城県気仙沼市、石巻市、仙台市、山本町、亘理町など沿岸部約 300 kmを視察
- 完全に破壊された街、地域、農地
- 激しい臭気の工場近くで、灯りのともる半壊の家々
- 地盤沈下により傾いた福祉施設。復旧には2億7千万
- 在宅障害者、難病の人々の極めて厳しい生活環境を知る



H23. 6. 1 岩手県大船渡市 行方不明者搜索



H23. 6. 1 宮城県気仙沼～石巻付近



H23. 6. 2 仙台空港近辺



H23. 6. 2 宮城県山本町

5. 被災地に招かれて（2011. 11. 12～11. 13）

- 岩手県大槌町、障害者支援施設四季の郷主催「地域福祉復興祭」に招かれて「共に生きる地域」の演題で講演（地域生活サポーター養成講座）を行う
- その施設は、地域生活支援のできる施設をめざして計画進行中に被災され、職員 1 名、デイ利用者 2 名を亡くした大槌町人口約 15,000 人、死亡・行方不明者約 14,000 人、仮設住宅に住む人々 4,000 人町長をはじめとする課長級以上の人々が皆、地震の対策会議中津波にのまれ生命を失った地域町の痕跡が残るとしか言えない、大半が更地となってしまった町
- 宿泊した隣接の釜石市も、スーパー堤防が壊れ人気のない町には鉄筋の建物などがやっと残る状態だった
- 地域ごと被災され、大切なものを失った方々を前に、地域福祉を話すのは全身全霊をかける思いだった。仮設に住む人々、被災を超えた障害のある人々や職員の皆さん、地域のボランティアの方々、支援 T シャツを喜び、演奏してくれた大槌高校ブラスバンドの皆さんとふれあって、すべてを無くしても、人のつながりで地域は残ると感じた。もう一度大槌町を再生して行かれることを祈り、復興への長い道のりを同じ国民として共に歩みたい、自分達にできる支援を続けたいと、同行したスタッフ（辻・田中・前田）と共に強く願う。



H23. 11. 12 大槌町役場跡 時計は 15 時 15 分停止



四季相談支援事業所跡



H23. 11. 13 大槌高校吹奏楽部



大槌町地域福祉復興祭にて

6. おわりに

- 本年 3 月私達は未曾有の震災を目のあたりにして、震災支援に全力を尽くすことを、法人と施設で確認しました。当時支援活動に動き出す中、スタッフでも支援のマナーを守ることを下記のように約束し、体制づくりを行いました。

今回の震災支援では、支援ができる側と支援を必要とする側の、あまりの環境の違い、苦しみの違いに呆然となりながら、普段使っている支援の意味を再考しここに確認します。

今回の支援について

1. 始めたら最後までやり抜くこと
2. ニーズに添い抜くこと（支援の質）－逃げないこと
3. 他者への痛覚を持ち続けること（遠くても、知らない人へも）
4. 協力体制づくり（施設内、地域、協議会等のできることに気付けて実行）
5. 支援のマナー（相手の迷惑にならない、尊厳を守ること）

などを大切に考えます。そしてこれは、日常の支援（ケアやサービス）においても共通の確認事項です。これから、東日本震災への支援（物資、職員派遣、利用者受け入れ）などは長期化します。一致協力して、積極的に取り組みましょう。